



青森総合卸センターニュース

編集・発行 協同組合青森総合卸センター 〒030-0131 青森市問屋町2丁目17-3 ☎017-738-4711 FAX017-738-7323
URL http://www.tonyamachi.com E-mail info@tonyamachi.com 発行/平成29年3月31日



若手従業員親睦交流会



各テーブルで会話が弾む



沼田禰宜によるご祈祷



祈願する参加者

団地内の交流の輪が広がる 若手従業員親睦交流会

第3回若手従業員親睦交流会が、2月17日(金)にホテル青森で開催され、20代から40代の組合員従業員ら32名が参加した。
同交流会は、問屋町で働く若手従業員同士が積極的に交流することを目的に昨年9月に初開催。交流の輪が広がる

ことで団地内の活性化につながり、参加者からも大変好評を得たことから、年2回のペースで継続開催することとなった。
3回目の開催となった今回はリピーターも多く、参加者は始めから打ち解け、終始和やかな雰囲気での交流会は進ん

だ。途中、自己紹介を兼ねて参加者が1人ずつステージに上がり、「24時間以内であった良かったこと」をテーマにスピーチを実施。翌日に起こることを予言する参加者もあり、会場は笑いに包まれた。交流会では、より多くの参加者と交流できるよう2回の席替えを実施。また、各テーブルには話のきっかけになるよう「休日の過ごし方は?」「最近食べたもので1番美味しかったものは?」などが書かれた「お題カード」を配付。会話を盛り上げるのに一役買った。

参加者からは「時間が短く感じるほど楽しかった」との嬉しい声も寄せられ、より有意義な交流会となるよう企画内容のブラッシュアップを図り、開催を続けていく。

問屋町会館で合同厄払い
平成29年問屋町新年合同厄払いを2月6日(月)に問屋町会館で開催。厄年を迎える組合員従業員18名が参加した。厄年とは平安時代からある風習の1つ。数え年で、男性は25歳、42歳、61歳、女性は19歳、33歳、37歳(61歳も含む地域等あり)が本厄。前の年を前厄、次の年を後厄という。厄年を迎える年齢の頃は、人の一生の中でも、健康、仕事、人間関係など、あらゆることで転機を迎え、災いが起こりやすいとされ、忌み慎まれている。厄払いは、その年の無病息災を祈願し、祈祷するものである。

参加者は「初めて厄払いを受けたが、身が引き締まり、とても良かった。本厄をしつかり切り切りたい」と感想を述べ、神妙な面持ちで会場を後にした。

平成29年度事業計画の承認
第10回理事会

平成29年度事業計画などを審議する第10回理事会を2月27日に問屋町会館で開催。審議の結果、全て原案どおり承認された。

また、事務局からは、除雪費の中間報告や平成29年度事業計画立案アンケート調査結果などについて報告を行った。

主な案件審議は次のとおり。
案件一：平成29年度事業計画の骨子について
案件二：事業委員会からの意見について

「呼吸の重要性」について学ぶ
問屋町支店長・所長連絡会

問屋町支店長・所長連絡会（青友会）の第23回親睦交流会が2月14日（火）、ホテル青森で開催され、同会員26名が参加した。

今回は、組合員でもある（有）ベストスマイル青森の大里社長を講師に招いて、「呼吸の重要性」をテーマに講演を行った。

同氏は、問屋町でリハビリに特化したデイサービス事業などを運営される傍ら、32年振りにオリンピック出場を果たした水球日本代表のトレー

案件三：組合員跡地の土地売買について
案件四：組合員跡地買取資金の借換について
案件五：組合員の所有権移転登記について
案件六：平成28年度第11回理事会の日程等について

平成29年度事業計画立案アンケート結果まとめ

組合の平成29年度事業計画立案アンケート結果がまとまった。

組合員の施設の課題についての調査では、58社の組合員が「老朽化」を挙げた。58社

ナーとしても活躍。その中でスポーツ選手のパフォーマンスを引き出すにあたり、呼吸がいかに大切であるかを経験した。

大里社長は、「人は誰もが心理的に安心していられる領域、コンフォートゾーン」を持つが、その領域から外れると緊張状態に陥り運動パフォーマンスが低下する。コンフォートゾーンはあくまで自分自身が無意識につくりあげているものであり、イメージトレーニングを繰り返すことで、この領域を変えていくことが可能」と話した。

イメージトレーニングを行う際のポイントの1つとして、



青友会 親睦交流会

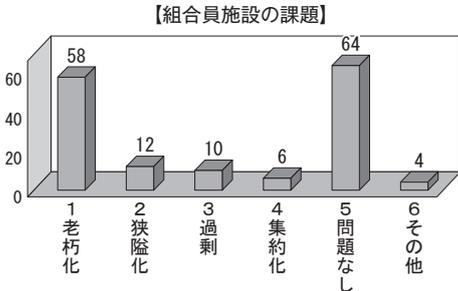
の内訳は、問屋町地区が38社、第二問屋町地区が20社。問屋町地区では築40年以上、昭和59年に造成された第二問屋町地区でも築30年以上経過する施設が増えてきている。今後、建て替えや改修などの動きも出始めると思われ、組合では高度化資金の活用支援を含め、サポートしていく。

近年の人材確保・求人状況についての調査では、「以前より厳しい」との回答が合わせて51社あった。青森の求人倍率が1倍を超える売り手市場が続いており、団地内でも

人材確保に苦慮する組合員が増えてきている結果となった。また、組合員従業員を対象とした福利厚生事業では、「健康づくり減塩料理教室」（33社）や、28年度に初開催し、すぐに定員いっぱいとなった「ボルダリング教室」（32社）の開催が多くの回答を集めた。

開校から7年目を迎える問屋町ビジネススクールで開催を希望する研修についての調査も実施。「前向きな職場づくり研修」が50社と最多で、「職場のストレスケア研修」（43社）、「好感のたれる話

し方研修」（41社）が続いた。組合では、当調査結果をもとに、29年度事業計画策定に取り組み。



「Y's CLUB」
Open College 開催

問屋町ビジネススクールでは、4月19日（水）に、「Y's CLUB」Open College in AOMORI」を開催する。

講師は、「ちいさな会社の経営コンサルタント」で、営業や販売戦略において全国トップレベルの講師である吉見範一氏。

今回は、氏の経験から、地方の企業がどうやって売上を伸ばしたのかを具体的な成功事例を中心に、販売戦略の秘密を解説する。
参加費用は1人5万円だ



吉見 範一 氏

業務用食品酒類専門卸

株式会社 小田川

本社 青森市第二問屋町三丁目8番36号
TEL (017) 739-5465 FAX (017) 739-9058



みちのくコカ・コーラボトリング株式会社

業務報告

主要事項

- 14日▽第4回事業委員会
- ▽市高度化事業団体連絡協議会地域産業懇談会
- ▽問屋町支店長・所長連絡会第23回親睦交流会
- 15日▽金融審査会
- 16日▽県中央会税制講習会
- 17日▽第2回企画情報委員会
- ▽翔友会・緑葉会合同新年会
- ▽青銀問屋町支店金友会総会・新年会
- ▽第3回若手従業員親睦交流会
- 18日▽八甲田交番連絡協議会総会
- 20日▽第4回労務対策委員会
- 21日▽第5回環境対策委員会
- 22日▽青森法人会健康セミナー
- ▽青森地区労働基準協会労務管理講習会
- 23日▽商工中金組合事務局長会議
- ▽東北卸商業団地連絡協議会事務局職員研修会
- 27日▽第10回理事会
- 28日▽県経営者協会理事会・幹事会
- ▽青森商工会議所業務流
- 23日▽流通用語の基礎
- 2日▽ビジネススマナー研修(クレーム対応編)
- 7日▽会計経理の基礎の基礎(分析編)①
- 9日▽会計経理の基礎の基礎(分析編)②
- 16日▽仕事の改善
- 21日▽会計経理の基礎の基礎(ステップアップ編)
- 23日▽流通用語の基礎
- 1日▽同友会第3回役員会
- 3日▽青森県運営診断
- 6日▽問屋町新年合同厄払い
- 8日▽元気都市あおもり健康アップ推進会議職域健康づくり部会
- 9日▽県中央会関係三団体合同新年講演会・新年会
- 11日▽簡易郵便局業務研究会
- ▽第2回問屋町ボルダリ

組合50年の歩み

第5回

「インフラの充実と情報化の進展①」

【昭和62年〜平成8年】

昭和60年から平成2年頃までの青森経済は、中央のバブル景気の影響を受け堅調に推移。青函トンネルの開通や、東北自動車道(青森〜浦和)の全線開通、青森空港に大型ジェット機が就航。また、青森県観光物産館「アスパム」や駅ビル「ラビナ」が開業、青函トンネル開通を記念して「青森EXPO'88(青函博)」も開催され、140万人以上を集めるなど、活況を呈し

ていた。昭和59年に第二問屋町が造成され、組合員の新規加入も順調に進み、平成3年には組合員数が146社と史上最多となった。

この時期の流通業最大の関心事は平成元年4月1日から施行されることとなった「消費税」。組合でも講演会や説明会等を開催したり個別相談室を開設するなど、組合員を支援した。

また、当時の中小卸業者では、消費者ニーズの多様化による多品種少量販売の動きへの対応が大きな課題となっていた。小売業から卸売業への発注形態が「御用聞き」、「電話発注」、「ファックス発注」と移り変わり、高度情報化の

進展を受け、大手企業ではコンピュータと通信ネットワークを用いた「EOS」を相次いで導入していた。しかし、中小の卸売業者が「EOS」を単独で導入するには多大な投資が必要となり、大きな負担となる。そこで組合では研究会を新設し、共同受発注ネットワーク構築に向けて検討を重ねた。

平成元年に県内5卸団地が中心となり、地域流通VAN(付加価値通信網)の運営会社「北日本流通ヴァン株式会社」を創立。本社は当組合に置かれ、データ処理は(株)青森共同計算センター、(株)八戸共同電算センターに委託。卸・小売間の受発注データ処理や

加入が進み第二問屋町で着々と建物が完成

棚ラベル及び端末機器等販売を行い、開業1年ほどで、卸・小売合わせ、80社以上が加盟した。

その他、平成5年には組合会計を電算化させ、平成8年には組合ホームページを開設するなど、情報化社会への対応を進めた。

加入が進み第二問屋町で着々と建物が完成

加入が進み第二問屋町で着々と建物が完成



加入が進み第二問屋町で着々と建物が完成

未来をネットワークする
JAC www.jacopen.co.jp
 ホームページ作成やサーバの運用管理は
 弊社データセンターにお任せください。
株式会社 青森共同計算センター
 〒030-0113 青森市第二問屋町3-10-26
 電話 017-771-1111 FAX 017-771-1123

お〜お茶 **伊藤園**
 青森支店 支店長 太田 雅貴
 青森支店 〒030-0113 青森県青森市第二問屋町3-6-35
 TEL.017-739-5711 FAX.017-739-9742

新たな光で未来を照らす。
EYE IWASAKI
岩崎電気株式会社
 代表取締役社長 伊藤 義剛
 本社 〒1103-0002 東京都中央区日本橋馬喰町1-4-16 馬喰町第一ビルディング
 TEL 03(5847)8611(代) FAX 03(5847)8645
 青森営業所 〒030-0113 青森市第二問屋町3-3-21
 TEL 017(739)3431(代) FAX 017(739)3476

人と大地のハーモニー
ISEKI **農業機械販売**
株式会社 中セキ東北
 青森支社
 〒030-0131 青森市問屋町2丁目11-23
 TEL 017(738)1331 FAX 017(738)8834

仙台市で東北卸地職員研修会が開催される

東北卸商業団地連絡協議会事務局職員研修会が2月23日(木)に仙台市で開催された。会場となった協仙卸商センターには、東北各県の卸団地から13名の事務局職員が集まった。

研修会では、(有)元気サポート代表取締役で社会保険労務士でもある伊藤祐子氏が「組合員企業の労務事情」について講演。伊藤氏は「労働問題で会社は簡単に倒産する。問題が起る前にきちんと対策を講じてほしい」と話した。講演後には意見交換会が行



東北卸地職員研修会

われ、各卸団地が現在直面している問題や対応事例について情報交換した。

ダイエツトで健康づくり 青森問屋町経営同友会

青森問屋町経営同友会では、ダイエットグランプリ201

7を開始した。同グランプリは、ダイエットを通して、適度な運動やバランスの良い食事を習慣化することで健康増進を図ることを目的に開催。参加者は自身の目標に合わせ、3kg、6kg、10kgのいずれかの減量コースにエントリー。同会会員交流会の都度、体重測定を行う。平成29年12月には最終測定を行い、目標達成者を表彰する。同友会では昨年度も有志でダイエットグランプリを実施し、会員2名が10kg減量の目標を達成するなど好評を博した。多くの会員からダイエット企画の継続希望があり、組合でも健康事業に積極的に取



同友会 ダイエットグランプリ

り組んでいることから、同会会員が率先して企業の健康づくりに取り組むべく実施の運びとなった。ダイエットグランプリには同会会員15名がエントリーし、目標達成を目指す。

新支店長に聞く

今回は、昨年7月に(株)商工組合中央金庫青森支店に赴任した、阿久津支店長にお話を伺った。

同金庫は、昭和11年に政府と中小企業組合が共同して出資する唯一の政府系金融機関として業務を開始。昨年12月に創立80周年を迎え、「中小企業による中小企業のための金融機関」として、企業のニーズに即した機動的なサービスを提供している。

「当金庫は政府系金融機関ではありますが、株式の約48%を日本国政府が保有しているというだけであり、事業の運営一切は民間が行っています。政府系であるが故の経営の安定性にお客様との



(株)商工組合中央金庫 支店長 阿久津 崇

取引スタンスの安定性と、お客様のライフステージに合わせた多種多様な金融商品の提供、柔軟な対応、これからも外部環境の影響を受け易い中小企業の経営をサポートしていきます」とアピール。新たな取り組みについて話が及ぶと、「今年度から全店舗で組合事務局長会議を開催することになりました。地元組合の情報共有化や他都道府県の事例紹介等で、総合的な活性化策に取り組んでいます。今後も継続的に開催し、組合の活性化を通じて地域貢献できるような努めてまいります」と述べた。

業界の現況について尋ねると、「昨年1月に導入された日銀のマ

イナス金利政策により市中の資金量は確実に増加し、銀行間の低金利競争を招いています。そのような状況だからこそ、お客様に当金庫の利用価値を知ってもらうことが私の役割だと感じています。手前味噌ではありますが、リレションを上手く構築させたいと思っています。金融機関は他に無いと思っ

「とにかく寒くて雪が多いですね。

今季の青森市は例年より雪が少なかつたようでとても助かりましたが、寒いところが苦手な私にはマイナス気温が身に伝えた。また、青森は新鮮な海の幸と沢山ある温泉が魅力です。休みの日は温泉を巡っているのが、お勤めの温泉があれば是非教えていただきたいです」と話す。

顔で語った。(47歳)

編集後記

一面で「若手従業員親睦交流会」の記事をお伝えしましたが、問屋町ではこれまで組合員間の団地内の交流を積極的に支援してきました。当組合は、組合員数140社、従業員2300人、団地内売上1300億円のキヤパがあります。これをB to BやB to Cのベースに役立てたいというのが交流支援の理由です。B to Bの可能性の前提となるのが人的交流です。経営者・幹部社員・一般社員とそれぞれの階層別、又は階層をクロスした人的交流が必要となります。今回の「若手従業員親睦交流会」もその試行の一步になればと思っています。転話題。古井祐司氏の「健康経営を阻む6つの罠とその対策」の続きです。今号はまず③「健康を個人だけに任せてしまふ罠」についてです。経営者には「大人なんだから健康は本人に任せるべき」という考え方があります。しかし実は、よほど強い気持ちを持った社員以外は、日常習慣を変えるのは難しいのです。そこで経営者が社員の健康にどのように向き合うのが鍵となります。社員の健康を高めることは仕事の質を高め、会社の質を高めることなのです。次に会社は健康宣言をしたものの④「社員がついてこないという罠」があります。長年の習慣には、形状記憶合金のような堅固な復元力があります。そこで社員の個性に「フィット」した、続けても苦にならないスマイルチェンジを用意しなければなりません。例えば間食が多い職場で急にそれを禁じるのはストレスが増すだけ。ティーブレイクとか大きな負荷を感じない、スマイルな提案を出すことなどです。この稿

続(藤本)

いつも変わらないおもてなしを。いつも新しい感動を。

HOTEL AOMORI TEL.017-775-4007

ご予約・お問い合わせ [ホテル青森予約センター/9:00~20:00] 青森市旭町1-23 TEL.017-775-4141

KANKO カンコースクールウェア & スポーツウェア

夢をえがく、はぐむ、かなえる！
子どもたちの未来を応援します

丸文さとう株式会社

〒030-0131 青森市問屋町一丁目9-22
TEL: 017-738-4721 FAX: 017-738-4725